理研会報

発行
印教研理科研究部
事務局
成田市立成田小学校
成田市幸町948－1

第40次 印教研理科研究部集会

その二

前回の会報で小学校低学年・高学年分科会関係について掲載しました。今回は、中学校分科会について掲載します。

中学校分科会　助言者
印旛地方出張所主任指導主事
牧野　隆

中学校分科会の研究推進の形態は、今次も引き続き各部会単位に研究員を組織した共同研究である。発表の順を追ってその外洋を紹介しながら感想を申し上げたい。

［　三部会　］

研究主題は、「生徒の興味・関心を高める授業はいかにあるべきか」であり、研究二年目にあたる。

研究内容は、「生物のからだ」の指導を通して、ホ乳類の内臓や骨格を実物で観察させることにより主題に迫るものである。今回はブタの心臓に焦点をしぼり「血液とその環境」の指導過程と観察の位置付け、指導方法等についての実践研究を、スライド、VTR等を駆使して発表した。

共同研究の利点を発揮し、多くの実践の裏づけをもった分かりやすい研究発表であった。直接体験の効果を主題に照らしどう実証するかが今後の課題である。

［　四部会　］

「子供が楽しみながら、見通しを持って学習に取り組むにはどうしたらよいか」を研究主題に掲げ二年目の研究である。

発表は、主題に迫るための仮説「学習テキストの活用」を中心にして、生徒にとって見通しのきく学習を成立させる手だてにしぼられた。アンケート調査の分析から「楽しさ」を味わわせるための「ゆとり」の確保と、単元学習の見通しを可能にするテキストが提示された。

これはまだ試案の段階であり、共同研究における多角的な実践検証が必要である。

［　五部会　］

研究主題は「自ら求め追及する理科学習の工夫」で、初年度に当る。

発表は研究計画の概要と、児童生徒に対する「生活体験アンケート」の分析考察が主となっている小・中学生を対象に、五〇項目にわたるアンケートを実施し、現在の子供の生活体験実態をとらえた授業を通して見た生徒の実態と比べ、予想以上に子供の生活体験が豊富であるという結果に驚きを感じている。子供の体験の質にメスを入れることが必要になる。

アンケートの分析に基づく仮説の修正と、実践研究の積み上げが今後の課題となろう。

［　一部会　］

研究主題は「自ら学ぶ児童・生徒を育成するにはどうしたらよいか」であり、サブテーマとして

―自己教育力を育成する授業はいかにあるべきか―を付記し、二年目の研究となる。

発表は気象教材にしぼり、ガイドブックを中心に共同開発した実験観察装置を紹介している。高気圧・低気圧の発生のしくみや風の吹き方などを、回転テーブルの上でビデオカメラでとらえる実験が目をひいた。補充実験、選択実験の中で、全体学習に取り入れたいものがあり、指導計画の再編成を求める意見が出された。

小学校における学習との関連や選択理科とのかかわりなど、今後の研究に期待したい。

［　二部会　］

研究主題は「生き方に迫る理科学習のあり方」であり、二年目を迎える。

発表は研究計画の概要説明と実践報告であった。「生き方」に迫るためには、自然との対話の機会を多くし、理科室にとじこもった学習から脱却する必要があると主張する。実践例として、一年「物質とその変化」を取り上げ、学習前後の子供の意識変革を感想文によってとらえる試みを紹介した。

理科学習の立場からは、自然のしくみを客観的・実証的にとらえさせることを通して、子供の意識変革を「生き方」にまで高める研究としてその成果に期待したい。

参加会員の声（高学年部会参加）
八街東小学校
竹内吉哉

本年度は、新指導要領への移行時期ということもあり、特に興味をもって教研集会に参加させていただきました。ほとんどの部会が移行をにらんでの発表であり、大変勉強になったのと共に、これからの取りくみについて考えさせられました。

一部会の発表では、新しく四年に取り入れられた光電池をどのように扱うかが具体的に示され、これからの授業実践の資料として大変参考となりました。また、光電池の資料も購入の際、役立たせていただきました。

二部会には「楽しさを抱かせる天文学習のあり方は、いかにあるべきか」のまとめの段階として、ガイドブック、クリアシートなど大変工夫された教具を見せていただき、大変参考になったと共に、やはり実際に子どもたちといっしょに星を見ることが、一番大切なのだと痛感しました。

三部会は、今回の移行で最も興味を持っていると共に指導に不安を抱いている「人体」についての発表でしたが男と女の体の違いについての指導等の実践を見せていただき、これからの指導に不安を持っていた者としては、やはり、そのような内容なのだと安心することができました。

このようなすばらしい発表の中で、四部会も新しい内容である、中和について実践を中心に発表しましたが、いかにして、「見通しを持たせるか」が今後の課題であり、他の部会の発表を参考に、さらに研究を進めていきたいと思います。

第三十四回　千葉県児童・生徒科学論文展

優秀賞

ひまわりのかんさつ・二　朝陽小学校　三年　大木　真由美

林の中でタンポポを見かけないのはなぜか　成田小学校　六年　井上　祐介

優良賞

植物による粉塵汚染調査　千代田中学校　三年　古林　眞哉

第四十回　千葉県児童・生徒科学工夫作品展

優秀賞

回るてんとう虫　成田小学校　五年　中路　典男

優良賞

サイクリングリンリン　八生小学校　二年　湯浅　陽介

鶴の恩返し　四街道小学校　六年　佐藤　健太郎

県の論文展・工夫作品展の結果がわかりました。例年にも増して、多くの作品が入りました。掲載していない作品は全て、「入選」です。

来年度も、多くの作品が集まることでしょう。

編集後記

「スキー場に雪がない。」というニュースが、毎日のように聞こえる今年の冬。異常気象なのでしょうか。

理研会報も今年二百号の記念号を発行することができました。今年は二百五号で締め括り、来年は二百六号からになります。今まで以上により充実した内容の会報にしていきたいと思います。

会員の先生方　よいお年をお迎え下さい。